

令和元年度第1回諫早市特別職報酬等審議会

1 日 時 令和2年2月19日(水)午後3時～

2 場 所 諫早市役所8階 8-3会議室

3 出席者 委員 6名  
入江良美委員  
大久保てるひ委員  
黒田隆雄委員  
古賀文朗委員  
宮崎大輔委員  
山口 実委員

欠席者 委員 2名  
西村伊知恵委員  
真壁正二郎委員

事務局 7名

4 会議次第

委嘱状交付式

- 1 委嘱状交付
- 2 市長挨拶

特別職報酬等審議会

- 1 開会
- 2 会長選出
- 3 諮問  
・諫早市議会議員の議員報酬の額について
- 4 議事  
(1) 職務代理者指名  
(2) 議事録署名人指名  
(3) 諮問事項審議
- 5 その他
- 6 閉会

5 審議内容

- (1) 委員の互選により古賀委員を会長に選出

- (2) 市長から審議会へ諮問書を手交
- (3) 会長が答申まで審議会の非公開を提案  
⇒全会一致で非公開を決定
- (4) 会長が山口委員を職務代理者に指名
- (5) 会長が入江委員を議事録署名人に指名
- (6) 審議事項

①【事務局から配布資料について説明】

- ・ 配布資料「諫早市特別職等報酬審議会資料」

②【委員の意見・質問及び事務局の説明・回答】

- ・ 議会から議員報酬の増額の検討をこの審議会に諮るよう要請があったとのことだが、議会では次期選挙から議員定数を減らすことを決定しており、これと報酬額の増額は関連するのか。  
⇒ 議会から報告を受けた中では、定数削減と議員報酬の増額の検討については、直接関連しているものではないとのことである。
- ・ 議員の平均年齢は。若い方々に将来議員として頑張ってもらいたいということで増額の検討をということであれば、生活給というものを保障しないといけないと考える。  
⇒ 平均年齢は60.5歳で20代が1名、30代1名、40代が2名、50代が7名、60代が13名、70代が6名となっており、60代以上が多くなっている状況。
- ・ 政務活動費はどうなっているのか。  
⇒ 諫早市の政務活動費は一人当たり月額35,000円で、年額420,000円となっている。議員の市政に関する調査研究その他の活動に充てられる経費であり、精算方式でホームページにおいて実績については公表している。
- ・ 報酬額の検討にあたっては、全国的にどうかというよりは、九州管内や同じような経済地域との比較がいいと思う。検討する材料として資料を提出してもらいたい。
- ・ 現在の議員報酬は合併の時に決まった額だと思うが、旧諫早市と同額なのか。

⇒ 旧諫早市の議員報酬の額と同額である。

- ・ 議員活動に専念する場合は現在の報酬は生活費や活動に係る経費などを考えると低いと感じる。

- ・ 最終的には諫早市の財務状況が関係してくる。財政上余裕があるのなら、九州一円を見た時の同レベルで検討するのはどうか。全国で、類似団体とはいえ大阪の箕面市、ベッドタウン化されている都市ですが、そこと比較されても意味がない。

⇒ 市の財政ということで考えると、議員定数が同じ状態で報酬を引き上げるとなると財政的影響があるが、今回の場合は、次期市議会議員選挙のときから定数が4人減となっていることからその報酬分については余裕があるという考え方もある。

また、諫早市の類似団体は50市あるが、50市全部で比較をやると元々の状況が違うという部分があるため中国、四国、九州の類似団体で比較するのが現状に近いという認識があるので事務局で九州一円の分析資料を作成したい。

- ・ 経済状況については、消費税が増税された影響で、年にすると6%のマイナスだと聞いている。また、新型コロナウイルスの関係で経済状況がかなり悪化するのが想定されており、民間の給料にも影響が出てくることが懸念される。

- ・ 議員の議会活動どのくらいあるのか。わかる資料を提供してほしい。

⇒ 次回までに平均活動日数等の資料を作成したい。

- ・ 市の職員の給与体系の中で、議員の報酬はどの程度の職に相当するのか。

⇒ 資料の1ページの一番下のところに、一般職の給与モデルを記載しており、課長級が給料表上6級に相当し給料と管理職手当を含めて月額459,306円となっている。なお、表に記載していないが、課長補佐級は5級になり、月額420,000円程度になる。

## (7) 意見集約

### ①【会長による意見集約】

本日は各委員から疑問、質問を出してもらった。事務局の方で今回の質問や要望に対する資料を次回出してもらい、一定の方向性を得たいと考えている。方向性を得た後に具体的内容について審議していくこととなると考えているがどうか。

②【委員の意見】

異議なし。